

C 自閉スペクトラム症・場面緘黙・吃音のある児童に関する調査

この度は調査へのご協力ありがとうございます。

- この調査は、「自閉スペクトラム症のある生徒」「場面緘黙、吃音のある児童」について、先生のお考えについてお聞きするものです。
- 調査対象者は、**通級指導教室(自閉症・情緒)の主任をされている先生**です。
- 正しい答え・間違った答えなどはございませんので、ご回答される先生の思った通りにお答えください。
- 本調査は統計処理をするので個人が特定・公表されることは一切ありません。また、結果につきましても、学術的な目的以外に使用いたしません。
- それぞれの質問をよく読み、該当する番号に○、または空欄に必要事項を記入してお答え下さい。
ご回答もれないようにお願いいたします。

東京学芸大学・橋本創一

【1】ご回答される先生と学校についてお答えください。

- (1) あなたの教員勤務年数をご記入ください。(____年)
- (2) あなたの通級による指導の担当年数を教えてください。(____年)
- (3) 貴校、または複数の担当学校(巡回指導)において担当する『通級による指導を受けている児童』の総人数をご記入ください。(____名)

【2】自閉スペクトラム症(疑い含む)のある児童 1 名についてお答えください。

(以下に説明する“カモフラージュ”をしている児童をなるべくあげてください)

自閉症者の社会的カモフラージュは、「自閉症の特性を意識的に周囲に見せないようにする、コミュニケーションの際に不足している部分(ボディランゲージ、アイコンタクト、表情)をテレビや映画や本などから学び演じる、あらかじめ用意した会話パターンで話す、自分ではない人を演じる」と言われています。主に成人で行うことが多いのですが、児童期の子どもたちにも、類似した行動がみられるかについて広く実態を調査することを目的にしました。

★自閉スペクトラム症(疑い含む)の児童で“カモフラージュ”のような行動をする児童、該当する児童がいない場合は、よく知っている自閉スペクトラム症(疑い含む)のある児童 1 名についてご回答ください。

(1)自閉スペクトラム症(カモフラージュをする)のある児童のプロフィール

- ① 対象児童の学年 (____)年生
- ② 対象児童の性別 ☐ 男 ☐ 女 ☐ その他・回答しない
- ③ 対象児童は通級による指導を何年間受けていますか (____)年間あるいは(____)か月
- ④ 対象児童は自閉スペクトラム症の診断 ☐ 診断がある ☐ 疑いがある ☐ 不明
- ⑤ 知的発達に遅れはありますか。

☐ 遅れはない ☐ 境界知能(IQ70～85:発達がゆっくり) ☐ 明らかな遅れがある(IQ70以下)

☐ わからない ☐ その他()

⑥ 失敗や叱責を過度におそれたり、成功することに対して強いこだわりがあったりしますか。

☐ 大変ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ まったくない ☐ その他()

⑦ 対象児童が同級生あるいは他学年の児童と交流をしている際に、“カモフラージュ”、あるいは、それに類似した行動をしていますか(ご回答いただいている先生の憶測で構いません)。

☐ 大変ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ まったくない ☐ その他()

☐ わからない

⑦-2 上の質問で、カモフラージュについて「大変ある」「少しある」と回答された場合は、具体的にどのような行動や姿でしょうか。具体的にお書きください。

()

⑧ 対象児童の家庭での様子について、保護者から「家に帰るとかなり疲れている」「その日の会話を思い返して不安な様子」などと聞いたことはありますか。

☐ とてもある ☐ 少しある ☐ ない ☐ その他() ☐ わからない

⑨ 対象児童の保護者は、「普通の人になること」「一般の社会でうまくやっていくこと」に関する期待度はどのくらいでしょうか(保護者の言動からの憶測で構いません)。

☐ とても期待している ☐ 少し期待している ☐ あまり期待していない ☐ まったく期待していない

☐ わからない ☐ その他()

⑩ 対象児童が、教員に対して、自分の気持ちを抑えたり、考えていることをすぐには言わなかったり、思っていることを口に出せなかったりするなどの自己抑制をする様子はみられますか

☐ 大変ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ まったくない ☐ その他()

☐ わからない

⑪ 対象児童が、教員に対して、「よく思われたい欲求(気に入られたい等)」や「期待に沿う努力(ほめられたい等)」をしていますか。

☐ 大変ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ まったくない ☐ その他()

☐ わからない

⑫ 友人との交流場面で、対象児童が、自分の気持ちを抑えたり、考えていることをすぐには言わなかったり、思っていることを口に出せなかったりするなどの自己抑制をする様子はみられますか

☐ 大変ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ まったくない ☐ その他()

☐ わからない

⑬ 友人との交流場面で、対象児童が、「よく思われたい欲求(気に入られたい等)」や「期待に沿う努力(ほめられたい等)」をしていますか。

☐ 大変ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ まったくない ☐ その他()

☐ わからない

⑭ 対象児童に、過剰適応する(自分を抑えて外的な期待に過剰に応えようとする)姿がみられる場合、自分なりの義務感やルールのようなものがありそうですか(頑張らないといけない、やらないといけないなど)。

☐ 過剰適応する姿がみられない ☐ 大変ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ まったくない

☐ その他() ☐ わからない

⑮ 上の質問で、「よく思われたい欲求」や「過剰適応」について「大変ある」「少しある」と回答された場合、どのような支援・指導をしていますか。具体的にお書きください。

()

⑯ 対象児童に、以下の症状や姿はみられますか(複数回答可)。

- ☐抑うつ傾向 ☐強い不安 ☐不登校 ☐教室にいられず別室で過ごす ☐感覚過敏
☐強い固執 ☐多動性 ☐衝動性 ☐暴力・暴言 ☐感情制御ができない(激しい怒り、泣き)
☐制止されてもしゃべり続ける ☐不注意 ☐集中・継続して活動できない(最後までできない)
☐時間管理ができない ☐忘れ物が多い ☐提出物を出さない ☐整理整頓ができない
☐潔癖症 ☐衛生感覚が低い ☐孤立している(交流を避ける傾向がある)
☐無気力(学習活動) ☐指示に従わない ☐学力の遅れ ☐偏った興味関心に没頭する
☐その他()

⑰対象児童は、自身の特性(自閉スペクトラム症)について理解や認識していますか。

- ☐大変わかっている ☐少しわかっている ☐あまりわかっていない ☐まったくわかっていない
☐その他() ☐わからない

⑱上の質問で、自身の特性について「大変わかっている」「少しわかっている」と回答された場合、

「自分には特性があるんだから(自閉症なんだから)、これ以上頑張らせないでほしい」と言ったり、周囲から支援を拒んだりする様子がありますか。

- ☐大変ある ☐少しある ☐あまりない ☐まったくない ☐その他()
☐わからない

⑲—2自身の特性をわかった上で、努力や支援を拒否する姿が「大変ある」「少しある」と回答された場合は、具体的にエピソードをお書きください。

()

【3】場面緘黙のある児童についてお答えください。

(1) 貴校・担当(巡回)する通級指導教室において、「場面緘黙」のある児童数をご記入ください。(____ 名)

★場面緘黙のある児童 1 名についてご回答ください。(該当する児童がいない場合は未記入で構いません)

(2)場面緘黙のある児童のプロフィール

- ① 対象児童の学年 (__)年生
- ② 対象児童の性別 ☐ 男 ☐ 女 ☐ その他・回答しない
- ③ 対象児童は通級による指導を何年間受けていますか (__)年間あるいは(__)か月
- ④ 対象児における医学的診断がある場合、該当するものを選んでください。(複数回答可)
- ☐場面緘黙症 ☐不安症 ☐限局性学習症 ☐自閉スペクトラム症 ☐注意欠如多動症
☐その他()
- ⑤ 対象児童(場面緘黙)の「話す場面における不安や、周囲からの評価懸念」について、最も当てはまるものを 1 つを選んでください。
- ☐非常に強く見られる ☐やや見られる ☐どちらともいえない
☐あまり見られない ☐全く見られない(意識が低いなど)
- ⑥ 対象児童(場面緘黙)への指導・支援(通級による指導)での難しさや負担感について教えてください。(複数回答可)
- ☐児童の特性や受け止め方(児童自身の思い)に合わせた最適な指導・学習内容を考えることが難しい
☐児童本人と話せない状態について、どの程度、どのように話題(直面化)にしてよいかという葛藤がある
☐実際の指導法・アプローチを導入する際に、学術的な根拠(エビデンス)や評価基準の不足・不安がある

- ☐ 遊び的な活動(遊戯療法的アプローチ)を導入する際に、自立活動としての目的・内容の位置づけが難しい
☐ その他()

⑦ 対象児童(場面緘黙)にとっての「安心できる居場所」は、主にどこに形成されていたと感じられますか。

当てはまると思われるものを【2 つまで】お選びください。

- ☐ 家庭（保護者の理解があり、最も素の状態でいられる場所）
☐ 通級指導教室での個別指導の空間（担当者と 1 対 1 で安心して話せる時間）
☐ 通級指導教室でのグループ指導・ピア交流の場（同じ悩みを持つ仲間と過ごす時間）
☐ 在籍学級(通常学級)の全体（担任の理解や適切な配慮があり、クラス全体に居心地の良さがある）
☐ 在籍学級での特定のグループ・役割の場（代替案などを通じて、自分の役割や自己発揮ができていた瞬間）
☐ 習い事や余暇活動（学校外のコミュニティ）
☐ どこにも居場所を見出せていない、あるいは判断が難しい
☐ その他()
☐ わからない

⑦-2 上記の質問において、そのように考えた具体的なエピソードや理由があればご記入ください。

()

⑧ 対象児童(場面緘黙)が、在籍学級での発表や音読の場面において、工夫や代替、免除などが行われていますか。その実施として最も当てはまるものを 1 つ選んでください。

- ☐ 発表や音読自体を「免除(パス)」することが多い
☐ 音読をペアで読んだり役割を小分けにするなど、負担を減らしている
☐ ICT機器を活用(録音の再生など)している
☐ 特に代替や免除は行っていない
☐ 把握していない
☐ その他()

⑨ 対象児童(場面緘黙)の保護者からの相談内容として、当てはまるものをすべて選択してください。

(複数回答可)

- ☐ 場面緘黙の症状に関する相談(接し方や予後など)
☐ 在籍学級での授業の遅れや、学習への苦手意識に関する相談
☐ 在籍学級の担任教室との連携(連携できない等)に関する相談
☐ 不登校(行き渋り)や、在籍学級の友人関係に関する相談
☐ 場面緘黙に伴う児童の心理面(人前の回避、自信喪失など)に関する相談
☐ 在籍学級での場面緘黙に起因するトラブル(からかい等)に関する相談
☐ 家庭での日常生活や生活習慣に関する相談
☐ 家庭での保護者が感じる「育てにくさ」に関する相談
☐ きょうだい関係や、家庭内でのコミュニケーションに関する相談
☐ 毎日の宿題(提出物)にとっても時間がかかる等の相談
☐ 進学や将来の就職、大人になってからの場面緘黙の影響など、将来への不安に関する相談
☐ 積極的な相談はない
☐ その他 ()

⑩ 対象児童(場面緘黙)の在籍学級担任との具体的な連携として、当てはまるものをすべて選択してください。

(複数回答可)

- ☐ 場面緘黙の特性や本人の状態に関する情報提供(資料配付や口頭説明)
☐ 授業(音読や発表)での具体的な配慮や合理的配慮に関する協議

- ☐行事、係活動、班決めなどの学級生活における環境調整に関する協議
- ☐からかいやトラブルが発生した際の対応方針に関する共有・協議
- ☐担任からの日常の様子についてのヒアリングや、悩み・相談への対応
- ☐その他（ ）

【4】吃音のある児童についてお答えください。

(1) 貴校・担当(巡回)する通級指導教室において、「吃音」のみられる児童数をご記入ください。（ ____ 名）

★通級する児童のなかで「吃音」が顕著にみられ児童 1 名についてご回答ください。

（該当する児童がいない場合は未記入で構いません）

(3)吃音のみられる児童のプロフィール

- ① 対象児童の学年 （__）年生
- ② 対象児童の性別 ☐ 男 ☐ 女 ☐ その他・回答しない
- ③ 対象児童は通級による指導を何年間受けていますか （__）年間あるいは（__）か月
- ④ 対象児(吃音)における医学的診断がある場合、該当するものを選んでください。（複数回答可）
☐吃音 ☐自閉スペクトラム症 ☐注意欠如多動症 ☐不安症 ☐限局性学習症
☐その他（ ）
- ⑤ 対象児の吃音症状で最も頻繁に示すものを選んでください。
☐連発〔語頭や語中の音を繰り返す「こ、こ、こ、こんにちは」〕
☐伸発〔引き伸ばし〕〔言葉の一部を引き伸ばす「こ——んにちは」〕
☐難発〔ブロック〕〔硬直し声や息が出なくなる「・・・こんにちは」〕
☐不明瞭〔症状ははっきりしない〕
☐わからない
- ⑥ 対象児童(吃音)の「話す場面における不安や、周囲からの評価懸念」について、最も当てはまるものを 1 つ を選んでください。
☐非常に強く見られる ☐やや見られる ☐どちらともいえない
☐あまり見られない
- ⑦ 吃音があることの支援について、ご回答いただいている先生の困難感や負担感について最も当てはまるものを1つを選んでください。
☐まったく感じない(困難・負担感がまったくない) ☐あまり感じない ☐どちらともいえない
☐やや感じる ☐非常に強く感じる(困難・負担感が強い)
- ⑧ 対象児童(吃音)への指導・支援(通級による指導)での難しさや負担感について教えてください。
（複数回答可）
☐児童本人の吃音(発語)に関する意識や自己理解がどこまであるのかがわからない
☐児童本人が吃音について悩んでいて、その対応や支援を提示することが難しい
☐吃音について児童へ指摘すべきなのか、指摘しない方がよいのか迷っている
☐児童自身の吃音特性(どんな時に出やすいか等)に関する理解を促す方法が難しい
☐児童にある障害特性(自閉症や情緒障害など)へのアプローチが優先されて、吃音に関する支援をおこなう余裕がない

- ☐ 吃音に伴う心理的な随伴症状(心理的な回避、諦め、黙り込みなど)への対応があつて難しい
 - ☐ 吃音症状が出にくくなるように、ゆったりとした速度で、あるいは引き伸ばして、柔らかい起声によって発話する方法(流暢性形成法)を導入しているが効果がみられない
 - ☐ 吃音症状の改善を目標とせず、比較的目立ちにくく楽な話し方・言葉に置き換える方法(吃音緩和法)を導入しているが効果がみられない
 - ☐ 「上手に話せたね」「今ちょっとつかえたね」などのフィードバックを即座に返す行動療法による方法(リッカム・プログラム)を導入しているが効果がみられない
 - ☐ 児童の能力(言語、認識、社会性、発音運動など)に応じた会話・コミュニケーション状況になるべく提供するという環境調整をおこなっているが効果がみられない
 - ☐ 自身の吃音について、周囲の友だちに「どのように説明するか／どんな配慮をしてほしいか」を自分で発信するための具体的な支援方法が難しい
 - ☐ その他()
- ⑨ 対象児童(吃音)が、在籍学級での発表や音読の場面において、工夫や代替、免除などが行われていますか。その実施として最も当てはまるものを1つ選んでください。
- ☐ 発表や音読自体を「免除(パス)」することが多い
 - ☐ 音読をペアで読んだり役割を小分けにするなど、負担を減らしている
 - ☐ ICT機器を活用(録音の再生など)している
 - ☐ 特に代替や免除は行っていない
 - ☐ 把握していない
 - ☐ その他()
- ⑩ 吃音に関して、対象児童の保護者からの相談について、最も当てはまるものを1つ選んでください。
- ☐ まったくない(吃音に関する相談はない) ☐ あまりない ☐ どちらともいえない
 - ☐ 少しある ☐ とても多くある(吃音に関する相談が多い)
- ⑪ 対象児童の吃音の支援について、先生のお考えや困っていることがあればお書きください。
- ()

※質問は以上です。ご協力ありがとうございました。